

吉原遺跡

— 新浜集会場新築工事に伴う発掘調査報告書 —

2021年3月

公益財団法人 和歌山県文化財センター

吉原遺跡

— 新浜集会場新築工事に伴う発掘調査報告書 —

2021年3月

公益財団法人 和歌山県文化財センター

序

吉原遺跡は、紀伊半島西側中央部の日高平野にあり、日高郡美浜町内の海岸沿いに位置します。本遺跡が所在する海岸砂丘上には、「日本の白砂青松 100 選」にもあげられる「煙樹ヶ浜海岸」が広がる、美しい景観がみられます。日高平野は、縄文海進時にできた入り江に日高川や西川からの土砂が流れ込むことにより砂嘴が形成され、入り江を塞ぎ潟湖となることで、次第に平野となっていました。この平野には、御坊市小松原Ⅱ遺跡・堅田遺跡、美浜町田井遺跡・西川遺跡等、縄文時代や弥生時代から人々が生活を営んだ痕跡が数多く残されており、これまで数々の発掘調査が行われてきました。

これまでの吉原遺跡の発掘調査成果から、弥生時代中期～古墳時代、平安時代、中世～近世の墓域が海岸砂丘上に展開していたことが明らかになっています。それらには弥生時代中期から庄内式併行期の方形周溝墓や土壙墓、本遺跡範囲の東側では中世から近世の火葬墓等があり、今回の調査では、墓域の広がりを考える上で貴重な調査成果を得ました。

ここに、調査成果を取りまとめ調査報告書を刊行いたします。この成果が当該地域の歴史を知るうえでの一資料となれば、幸いに存じます。

最後となりましたが、発掘調査ならびに本書の作成にあたり、ご指導、ご助言をいただきました関係各位の方々、地元の方々に深く感謝申し上げます。

令和3年3月

公益財団法人 和歌山県文化財センター

理事長 櫻井敏雄

例 言

1. 本書は、和歌山県日高郡美浜町吉原に所在する吉原遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は新浜集会場新築工事に伴うもので、発掘調査業務及び出土遺物等整理業務は令和2年度に実施した。
3. 発掘調査及び出土遺物等整理業務は、美浜町の委託事業として和歌山県教育委員会（以下、「県教育委員会」という。）による指導のもと、公益財団法人和歌山県文化財センター（以下、「当文化財センター」という。）が実施した。
4. 発掘調査及び出土遺物等整理業務に要した経費は、美浜町が負担した。
5. 本調査とともに、新浜集会場新築工事に関連し、本調査区南側に位置する町道における水道管及びその埋設工事に伴う立会調査も実施し、その内容も掲載した。
6. 現地調査に際し、各関係機関並びに近隣の方々から多大なご協力を得た。
7. 発掘調査及び出土遺物等整理業務にかかる体制は以下のとおりである。

発掘調査及び出土遺物等整理業務（令和2年度）

事務局長（管理課長）	井上 挙宏
事務局次長	立花 佳樹
埋蔵文化財課長	丹野 拓
発掘調査・出土遺物等整理業務	田之上 裕子

8. 遺構・遺物の写真撮影及び本書の編集・執筆は田之上が行なった。
9. 基本的に、調査区名、遺構名は発掘調査時のものを踏襲した。
10. 発掘調査及び出土遺物等整理業務で作成した実測図・写真・台帳等の記録資料は当文化財センターが、出土遺物は美浜町教育委員会が保管している。

凡 例

1. 発掘調査及び出土遺物等整理業務は『財団法人和歌山県文化財センター発掘調査マニュアル（基礎編）』（2006. 4）に準拠して行った。
2. 発掘調査及び本書で使用した座標値は、平面直角座標系（世界測地系）第VI系、標高は東京湾平均海面（T.P.）の数値であり、単位はmを使用している。方位は、座標北（G.N.）を用いた。
3. 土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人 日本色彩研究所色票監修 小山正忠・竹原秀雄 編・著『新版標準土色帖』（2018年版）を使用した。
4. 遺構・遺物の縮尺は、各挿図に明記した。また、遺構・遺物写真等の図版縮尺については任意であり、統一していない。
5. 調査で使用した調査コードは、20-25・010（2020年度-美浜町・吉原遺跡）で、記載資料はこのコードを用いて管理している。

本文目次

第I章 位置と環境	1	第IV章 調査成果	4
第1節 地理的環境	1	第1節 基本層序	4
第2節 歴史的環境	1	第2節 調査の成果	6
第3節 既往の調査	3	1. 1-1区の調査成果	6
第II章 調査の経緯と経過	3	2. 1-2区の調査成果	6
第1節 調査にいたる経緯	3	3. 2区の調査成果	8
第2節 発掘調査の経過	3	4. 除根工事に伴う立会調査成果	11
第3節 出土遺物等整理作業の経過	4	5. 町道水道管埋設に伴う立会調査成果	15
第III章 調査の方法	4	第V章 まとめ	15
第1節 地区割の設定	4		
第2節 調査の手順	4		

挿図目次

図1 周辺遺跡分布図	1	図8 1-2区遺構平面図・土層断面図	9
図2 既往の調査位置図	2	図9 2区遺構平面図	10
図3 地区割図	2	図10 2区出土遺物実測図	11
図4 調査区全体図	5	図11 2区土層断面図	12
図5 1-1区出土遺物実測図	6	図12 2区個別遺構平面図・土層断面図	13
図6 1-1区遺構平面図・土層断面図	7	図13 2区個別遺構土層断面図	14
図7 1-2区出土遺物実測図	8	図14 除根時出土遺物実測図	15

表目次

表1 出土遺物観察表（土器・瓦）	16	表2 出土遺物観察表（石製品）	16
------------------	----	-----------------	----

写真図版目次

写真図版1 全景	写真図版5～7 2区
写真図版2 1-1区	写真図版8 立会調査
写真図版3・4 1-2区	写真図版9・10 出土遺物

第 I 章 位置と環境

第 1 節 地理的環境

吉原遺跡は、紀伊半島西部海岸の中央部、日高郡美浜町吉原に所在し、日高川河口右岸から日ノ御崎までの太平洋をのぞむ煙樹ヶ浜海岸砂丘上に位置する。

吉原遺跡の位置する日高平野は、日高川下流域にあたり、日高川と西川が形成した複合三角州である。その海岸部の東半は、西山東麓から弧を描いて日高川河口までのびる、全長約 4.0km、幅 1.0km ほどの海岸砂丘である。形成過程から新旧 2 列あると考えられ、新旧の境界は砂丘上を通る県道柏・御坊線とされており、砂丘後背地は、標高 1.0m ほどの低湿地となっている。本遺跡は、この新旧 2 列の海岸砂丘上に位置し、東西約 500m、南北約 120m の範囲に広がっている。

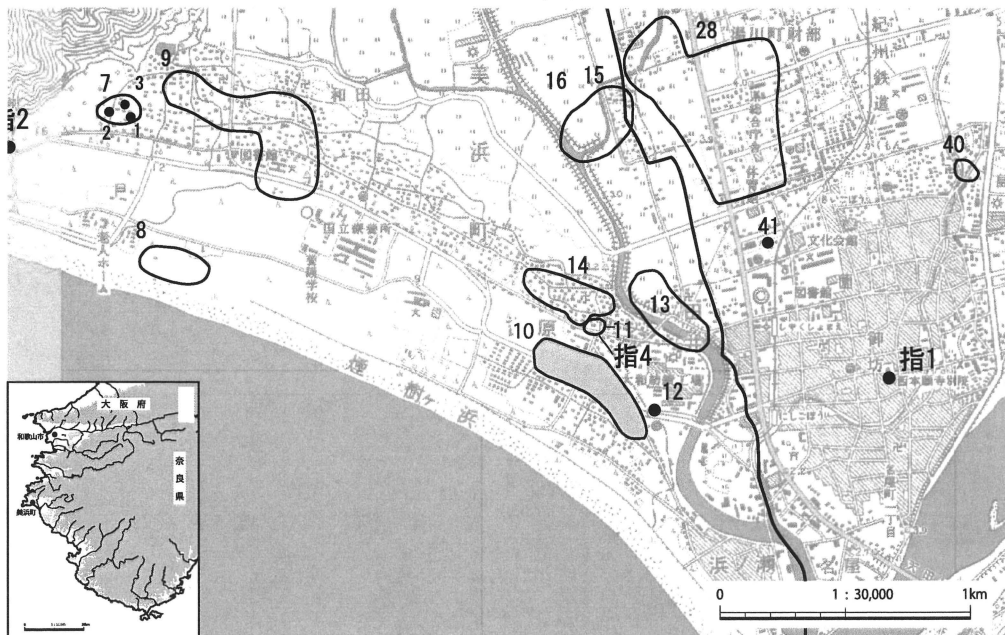
第 2 節 歴史的環境 (図 1)

吉原遺跡の位置する日高平野は、県下では和歌山平野に次ぐ広さで、御坊市、美浜町並びに日高町が所在し、歴史的環境を考える上で重要なことから日高平野周辺の遺跡についても言及する。

旧石器時代 美浜町内では確認されていないが、日高川町松瀬遺跡で石器が、御坊市壁川崎遺跡で剥片石器やナイフ形石器が採集されている。

縄文時代 御坊市尾ノ崎遺跡、日高川町和佐遺跡及び松瀬遺跡では早期から晩期の土器が、御坊市馬地遺跡では中期初頭の土器が出土している。これらの遺跡は比較的高い所に所在するが、後期から晩期の御坊市小松原Ⅱ遺跡や美浜町田井遺跡 (15) は標高の低い位置にあり、縄文海進以後に土砂の堆積により洲が生じて居住域に変化が起きたものと思われる。

弥生時代 前期の集落には 3 重環濠をもつ御坊市堅田遺跡 (28) があり、中期前葉の集落は不明だが、吉原遺跡 (10) で中期前葉から後期の方形周溝墓を含む墓域が確認されている。中期には、御坊市東郷遺跡・小松原Ⅱ遺跡・富安Ⅰ遺跡等が中心的な集落として平野部に営まれた。その後、



【美浜町】 10. 吉原遺跡 7. 和田古墳群 8. 和田Ⅰ遺跡 9. 和田Ⅱ遺跡 12. 松原経塚 13. 堂の前西沼遺跡 14. 吉原御坊跡
15. 田井遺跡 16. 西川遺跡 指 4. 松原王子神社の社叢 【御坊市】 28. 堅田遺跡 40. 善明寺窯跡 41. 小竹祝塚古墳 指 1. 日高別院の公孫樹

図 1 周辺遺跡分布図

中期末頃には、平野部の一部の集落は廃絶し、御坊市亀山遺跡といった高地性集落が営まれた。平野部の集落のひとつ、東郷遺跡は後期初頭頃の間断期を経て後期前半には集落は再開し、庄内式期・布留式期以降も継続する。美浜町内では、後期の堂ノ前西沼遺跡(13)、西川遺跡(16)等があるが、多くが未調査のため実態は不明である。

古墳時代 前期から後期の集落には、搬入土器が多く出土する東郷遺跡があり、中心的な集落とみられる。日高川南岸の尾ノ崎遺跡で前期から中期、あるいは弥生時代末から古墳時代中期の方形周溝墓が確認されている。前期末から中期では、日高川北岸の御坊市阪東丘1・2号墳が、南岸には中期古墳の御坊市岩内3号墳が築造される。後期には、当地域で唯一の前方後円墳である御坊市天田28号墳が築造され、御坊市片山古墳群・富安古墳群・亀山古墳群等の群集墳が多く形成される。美浜町では、後期の入山古墳群、和田古墳群(7)、本ノ脇古墳群が確認されている。終末期には、漆塗木棺や銀装太刀が出土した御坊市岩内1号墳があり、有間皇子の墓とも言われている。

古代から中世 古代の日高川下流域は日高郡に属し、財部、内原、岩淵の三郷に比定される。堅田遺跡周辺で奈良時代の日高郡衙、小松原Ⅱ遺跡周辺で奈良時代から平安時代の日高郡衙と推定されている。また、条里遺構と思われる地名から御坊市付近において条里の施行が推定される。道成寺が、大宝元年(701年)に文武天皇の勅願により建立され、日高川町小熊地獄山墳墓に奈良時代の火葬墓があることから、この地域に仏教文化が伝わった時期がわかる。

美浜町では、和田Ⅱ遺跡で古代銭「貞観永寶」や緑釉陶器が出土しており、平安時代の墓域と考えられている。吉原地区では、平安時代の埋納と思われる松原経塚(12)があり、熊野御幸道の王子社に関する遺跡とされている。平安時代

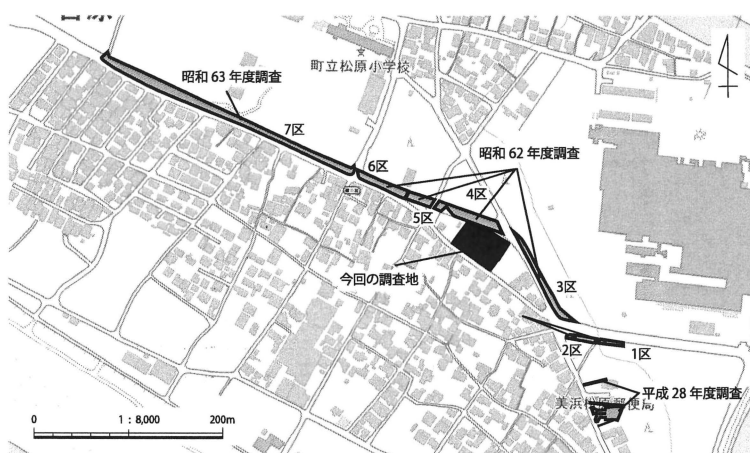


図2 既往の調査位置図

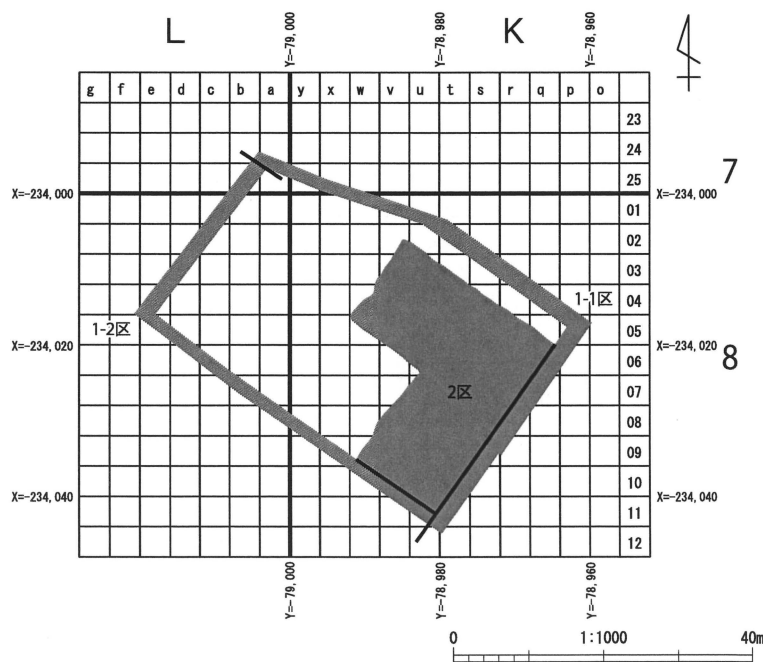


図3 地区割図

後期から中世の集落では、熊野街道沿いの御坊市東大人遺跡や同市岩内Ⅰ遺跡が確認されている。戦国時代では、足利幕府の奉公衆である湯河氏が小松原館や亀山城等を拠点として勢力をふるったが、天正13年(1585)の羽柴秀吉の紀州攻め以降、衰退した。

第3節 既往の調査(図2)

今回の調査地の北接地において、昭和62・63年度の第1・2次調査^{註1}で当文化財センターによって県道柏・御坊線改良工事に伴って実施された。調査面積は約3,300㎡で、弥生時代中期前葉から終末期の方形周溝墓、弥生時代中期前葉から古墳時代前期(庄内式併行期)、奈良時代、平安時代の土壙墓等が確認された。平成25年度には、今回の調査地の西接地で県教育委員会による立会調査が実施された。平成28年度には、本遺跡の西側で当文化財センターが実施した調査^{註2}では、奈良時代から平安時代の土坑、中世以前の列石状遺構、中世から近世の火葬墓が確認された。

第Ⅱ章 調査の経緯と経過

第1節 調査にいたる経緯

令和2年度に美浜町により日高郡美浜町吉原における新浜集会場新築工事が計画され、予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である吉原遺跡であることから、同町と県教育委員会において協議が行われ美浜町から文化財保護法に基づく通知が提出された。工事予定地は、昭和62・63年度の第1・2次調査地と平成25年度の県教育委員会の立会調査地に接するため、それらの調査成果から、県教育委員会から美浜町へ記録保存調査が必要である旨の通知がされた。これにより、美浜町より依頼を受け、県教育委員会指導の下、当文化財センターが新築工事予定地1,550.0㎡における樹木の伐根工事及び立会調査、集会場建物と擁壁部分である720.6㎡を対象に記録保存を目的とした本発掘調査を行うこととなった。令和2年7月1日に「新浜集会場新築工事に伴う吉原遺跡発掘調査等業務」として美浜町と契約を行い、事業を実施した。

第2節 発掘調査の経過

事前に、国土交通省公共作業規程に準じた3・4級基準点測量を「新浜集会場新築工事に伴う吉原遺跡発掘調査等業務に係る航空写真測量・基準点測量委託業務」として、令和2年6月18日から同年9月30日の工期で和歌山航測株式会社^{註1}に再委託し実施した。基準点測量は、世界測地系を基準とする3級基準点を1点、調査地隣地に4級基準点を1点設置した。これとは別に水準点測量は、直接水準測量により観測を行い、基準点測量により設置した3級基準点と4級基準点に標高(T.P.)を求めた。2区において検出した遺構は、ラジコンヘリコプターを使用して航空写真撮影及び航空写真測量による図化(縮尺1/50及び1/100)を行った。

発掘調査は、「新浜集会場新築工事に伴う吉原遺跡発掘調査工事」として、有限会社塩崎工務店に再委託し、令和2年6月18日から同年10月2日までの工期で実施した。対象地は、除根工事も含む1,550.0㎡であり、そのうち、発掘調査対象地は建物と擁壁部分で合わせて720.6㎡である。擁壁部分を1-1・1-2区、建物部分を2区として順次調査を行なった。

令和2年9月12日に現地説明会を行い、周辺住民や新聞各社の記者等の53名の参加を得た。

第3節 出土遺物等整理作業の経過

調査で出土した遺物は、コンテナ(28ℓ/箱)で6箱で、出土遺物は、弥生土器、須恵器、土師器、瓦質土器、瓦、陶磁器、石製品等がある。整理作業として、令和2年10月より遺物の洗浄、注記、登録、土器接合・補強、復元、実測、遺構・遺物の実測図面のトレース、遺物の写真撮影・組版作業を行い、令和3年3月に報告書を刊行した。

第三章 調査の方法

第1節 地区割の設定(図3)

調査区の地区割りは平面直角座標系を使用し、吉原遺跡を網羅する北西に基点(X=233,300m、Y=77,900m)を設け、その点から中区画・小区画を設けて区割りを行った。中区画は基点をA1地点と定めて、西方向へ100mごとにB、C、D・・・、南方向に2、3、4・・・という軸を設定した1辺100m四方の区画で、北東隅の地区名を用いてA1、C3などと呼称する。中区画の北東隅をa1地点として、そこから4mずつ西方向へb～y、南方向へ2～25とそれぞれの方向に25分割し、一辺4mの正方形区画を小区画とする。小区画は北東隅の地区名からa1区～y25区と呼称する。地区名は、中区画-小区画(A1-a1区など)で表す。今回の調査区では、1-1区がK7、K8、L7、L8、1-2区がK8、L7、L8、2区がK8の範囲内に相当する。

第2節 調査の手順

各調査区の重機による掘削は、昭和62・63年度・平成28年度発掘調査、平成25年度立会調査の調査成果により遺物包含層とされた第3層上面まで行った。その後、人力により第3層以下を掘削し、遺構の検出及び掘削を行った。遺構内埋土は、土層の堆積状況が確認できるように半截し、写真撮影及び実測して記録した後、完掘した。写真撮影は、調査区全景及び土層断面、個別遺構の写真について35mmフルサイズデジタルカメラを用いて行った。実測作業は、全体図は、1-1・1-2区では縮尺1/20で図化し、2区では航空測量による作図を縮尺1/50と1/100について行った。土層断面図、個別遺構図等については、全調査区で縮尺1/20で図化した。

第四章 調査成果

第1節 基本層序

今回の調査地における基本層序は、昭和62・63年度の第1・2次調査、平成25年度の県教育委員会の立会調査、平成28年度の発掘調査の成果を参考に、次のように大別した。

第1層：10YR3/3 暗褐色粘質土混じり細砂で、本調査地にあった防風林による腐植土である。

第2層：10YR5/4～5/3 にぶい黄褐色礫混じり砂層で、しまりが無い。近現代の攪乱土を含む、近世以降の遺物包含層である。

第3層：10YR3/3 暗褐色粘質シルト混じり細砂でややしまりがなく、上面が一部土壌化している。弥生時代中期から中世までの遺物包含層である。近代以降の攪乱が多い。

第4層：10YR4/3 にぶい黄褐色小礫混じり細砂で、しまりが無い。上面が土壌化し、遺構面を構成する。上面で弥生土器片や須恵器片が出土した。

第5層：10YR5/3 にぶい黄褐色細砂。

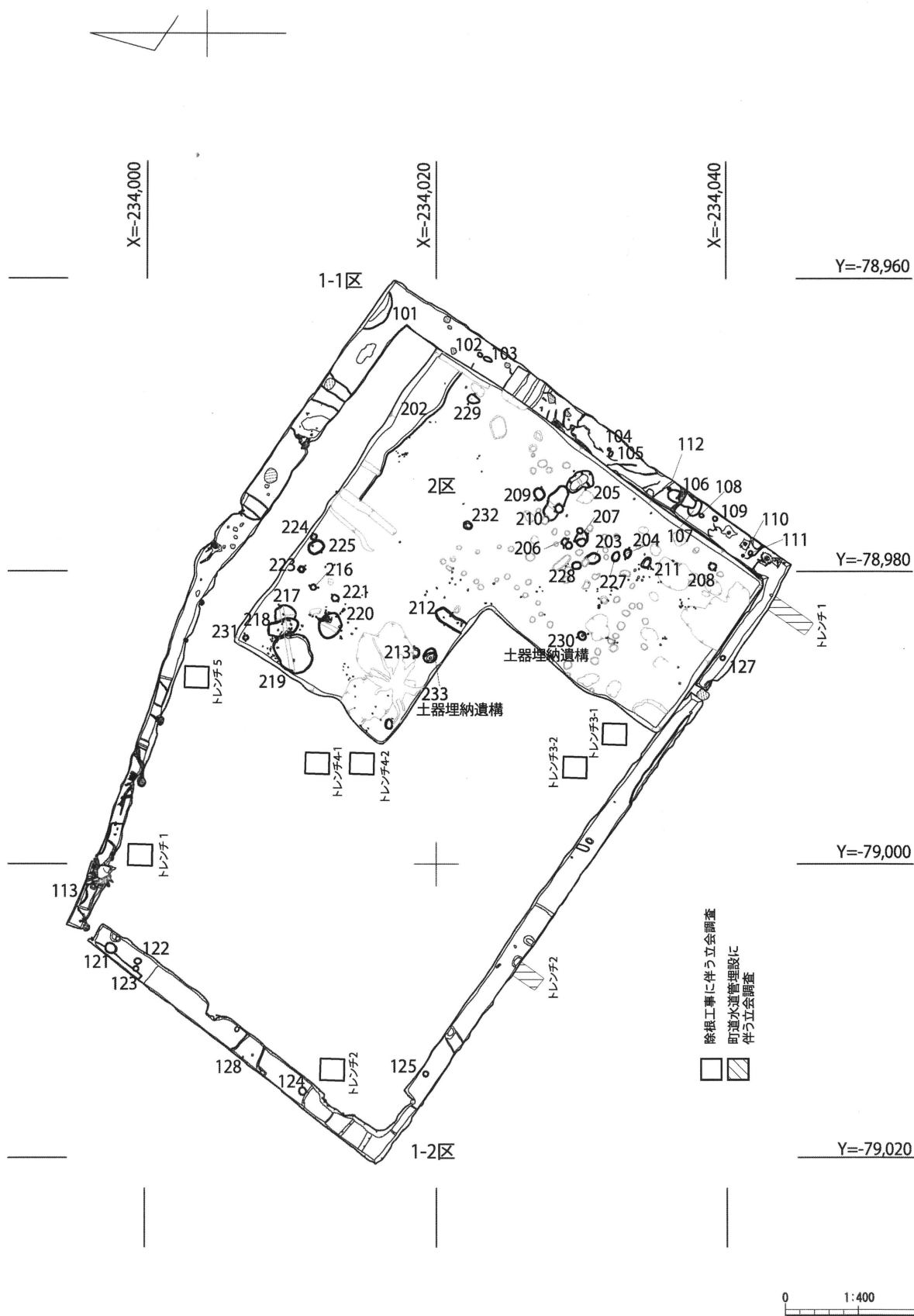


図4 調査区全体図

第6層：10YR2/4 灰黄褐色細砂～粗砂。第5層とともに、しまりのない細砂～粗砂層で、無遺物層であることから自然堆積層と思われる。

第2節 調査の成果

1. 1-1区の調査成果 (図4～6 図版2・9)

遺構 1-1区の東側で土坑2基、小穴9基、北側で土坑2基を確認した。遺構、特に小穴の埋土は遺構面を構成する第4層土(10YR4/3にぶい黄褐色細砂)に粘質シルトが混じったものが多い。近世以降と思われる径0.2～0.3mの遺構を確認し、埋土は遺構面を構成する第4層土がやや硬く締まったものである。

101土坑 北側西部に位置する。北壁際に位置することから全体は不明だが、平面形は円形呈するか。長軸3.05m、残存短軸0.87m、深さ0.4mを測る。埋土は、上層が10YR4/2灰黄褐色細砂混じり灰黄色土、下層が10YR4/2灰黄褐色シルト混じり細砂の2層である。

遺物 遺構内から遺物は出土しなかったが、第1～2層の排土中から弥生土器壺口縁部(3)、近世の瓦類(三巴軒丸瓦(7・8)、道具瓦(5・6)、平瓦等)、土師質土器焙烙(2)・焜炉(1)、陶磁器(鉄道茶瓶(4・写真31)等)、第3層から土師器片、第4層上面から弥生土器片が出土した。

2. 1-2区の調査成果 (図4・7・8 図版3・4・9・10)

遺構 1-2区の西側で土坑1基、小穴3基、溝1条、南側で小穴2基、溝1条を確認した。121土坑以外の遺構から遺物は出土しなかった。土坑・小穴の埋土は第4層土に粗砂や小礫が混じったものが多い。

121土坑 西側北部に位置する。平面形がやや楕円形を呈する土坑で、長径0.81m、短径0.67m、深さ0.13mを測る。埋土は10YR4/3にぶい黄褐色細砂～粗砂である。細片で図化できなかったが、弥生時代中期の広口壺頸部～体部片が出土した。

128溝 西側に位置する。残存長1.55m、幅1.54～1.9m、深さ0.14mを測る。埋土は上層

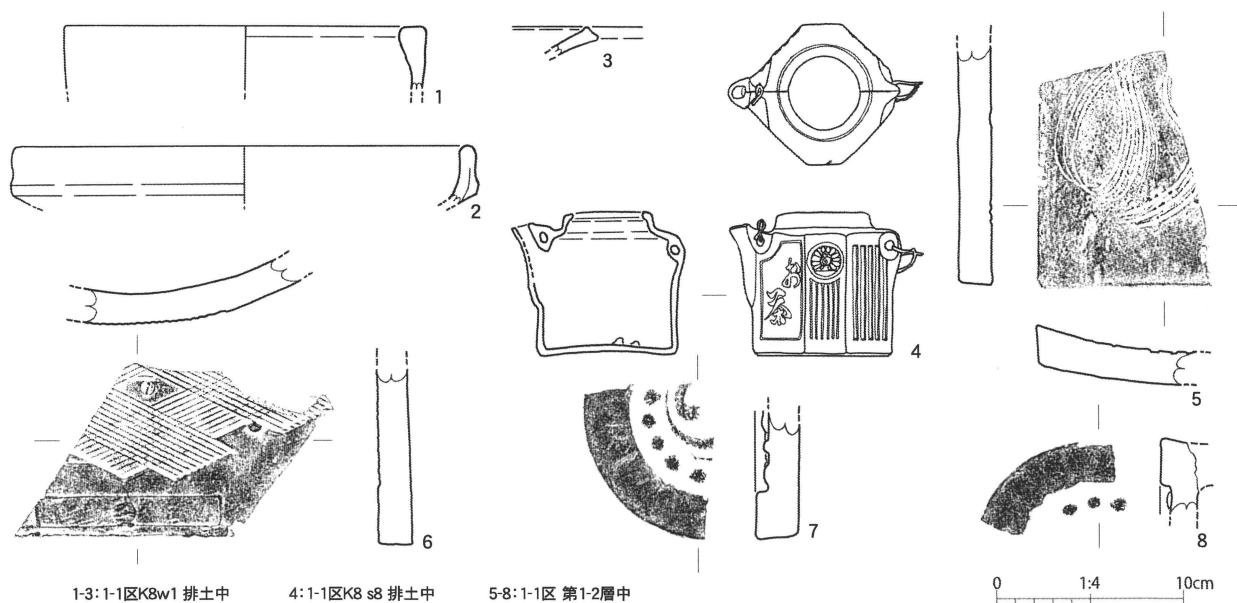
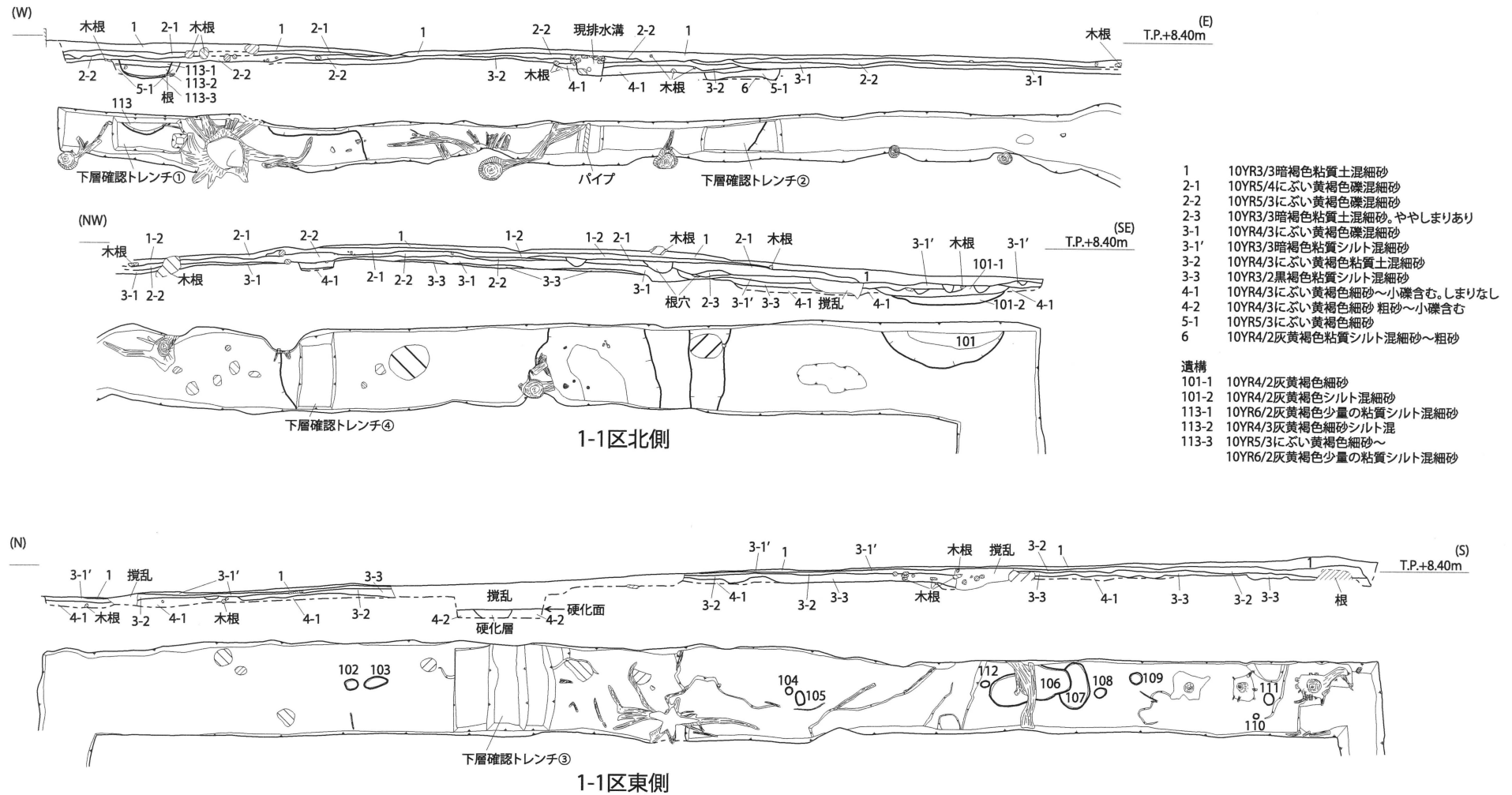
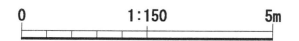


図5 1-1区出土遺物実測図

図 6 1-1区北側・東側遺構平面図・土層断面図



- | | |
|------|----------------------------|
| 1 | 10YR3/3暗褐色粘質土混細砂 |
| 2-1 | 10YR5/4にぶい黄褐色礫混細砂 |
| 2-2 | 10YR5/3にぶい黄褐色礫混細砂 |
| 2-3 | 10YR3/3暗褐色粘質土混細砂。ややしまりあり |
| 3-1 | 10YR4/3にぶい黄褐色礫混細砂 |
| 3-1' | 10YR3/3暗褐色粘質シルト混細砂 |
| 3-2 | 10YR4/3にぶい黄褐色粘質土混細砂 |
| 3-3 | 10YR3/2黒褐色粘質シルト混細砂 |
| 4-1 | 10YR4/3にぶい黄褐色細砂～小礫含む。しまりなし |
| 4-2 | 10YR4/3にぶい黄褐色細砂 粗砂～小礫含む |
| 5-1 | 10YR5/3にぶい黄褐色細砂 |
| 6 | 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト混細砂～粗砂 |
- 遺構
- | | |
|-------|------------------------|
| 101-1 | 10YR4/2灰黄褐色細砂 |
| 101-2 | 10YR4/2灰黄褐色シルト混細砂 |
| 113-1 | 10YR6/2灰黄褐色少量の粘質シルト混細砂 |
| 113-2 | 10YR4/3灰黄褐色細砂シルト混 |
| 113-3 | 10YR5/3にぶい黄褐色細砂～ |
| | 10YR6/2灰黄褐色少量の粘質シルト混細砂 |



10YR6/4 にぶい黄橙色粘質シルト混じり細砂、中層 10YR5/3 にぶい黄褐色粘質シルト混じり細砂、下層 10YR4/4 褐色粘質シルト混じり細砂の3層が水平に堆積する。遺構面を構成する第4層よりしまりのあり、粗砂や小礫を含んだものである。

1-1 区と同様に、近世以降と思われる径 0.2~0.3m の遺構を確認し、埋土は遺構面を構成する第4層土がやや硬く締まったものである。

遺物 第1~2層から近世の瓦類(三巴文軒丸瓦(13)、丸瓦(14)等)、土師質土器焜炉(9)・目皿(11)、陶磁器(備前焼播鉢(12)、磁器染付猪口(10)等)、近世以降の遺物が出土した。第3層からの出土遺物はなく、第4層上面の121土坑周辺から弥生土器片が出土した。

3. 2区の調査成果(図4・9・10 図版5~7・10)

遺構 土壙墓の可能性の高い土器埋納遺構2基、土坑10基、小穴11基、溝2条が確認した。調査区東半部で、近世以降と思われる径 0.2~0.4m の遺構が多く確認された。埋土は遺構面を構成する第4層土がやや硬く締まったものである。

230 土器埋納遺構 2区南部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径 1.8m、短径 1.58m、深さ 0.15mを測る。埋土は 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト混じり細砂で、浅いレンズ状に堆積する。弥生土器鉢(19)が中央部底部で南に傾いた状態で出土した。埋土から骨片等は確認できなかったが、土壙墓の可能性が高い。弥生時代中期のものと思われる。

233 土器埋納遺構 2区西部に位置する。平面形は東側がやや尖った楕円形を呈し、長径 2.03m、短径 1.76m、深さ 0.31mを測る。上部から須恵器甕(20)が北側に横倒しの状態で、中ほどで須恵器無蓋高坏(21)が逆さの状態で出土した。須恵器型式での田辺編年でTK208にあたり、古墳時代中期中葉のものと思われる。埋土から骨片等は確認できなかったが、土壙墓の可能性が高い。

203 土坑 東中央部に位置する。埋土は 2.5Y5/6 黄褐色粘質シルト混じり細砂。細片で図化できなかったが、須恵器の坏蓋口縁部(TK208)が出土した。古墳時代中期中葉のものと思われる。

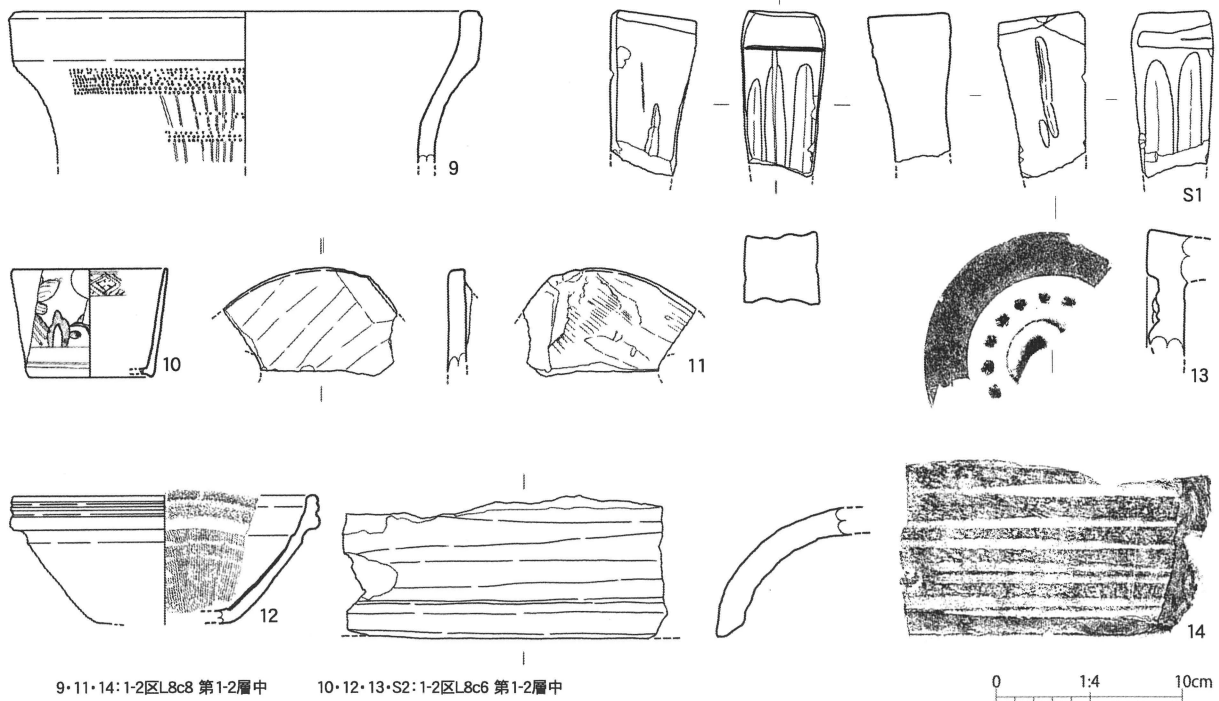
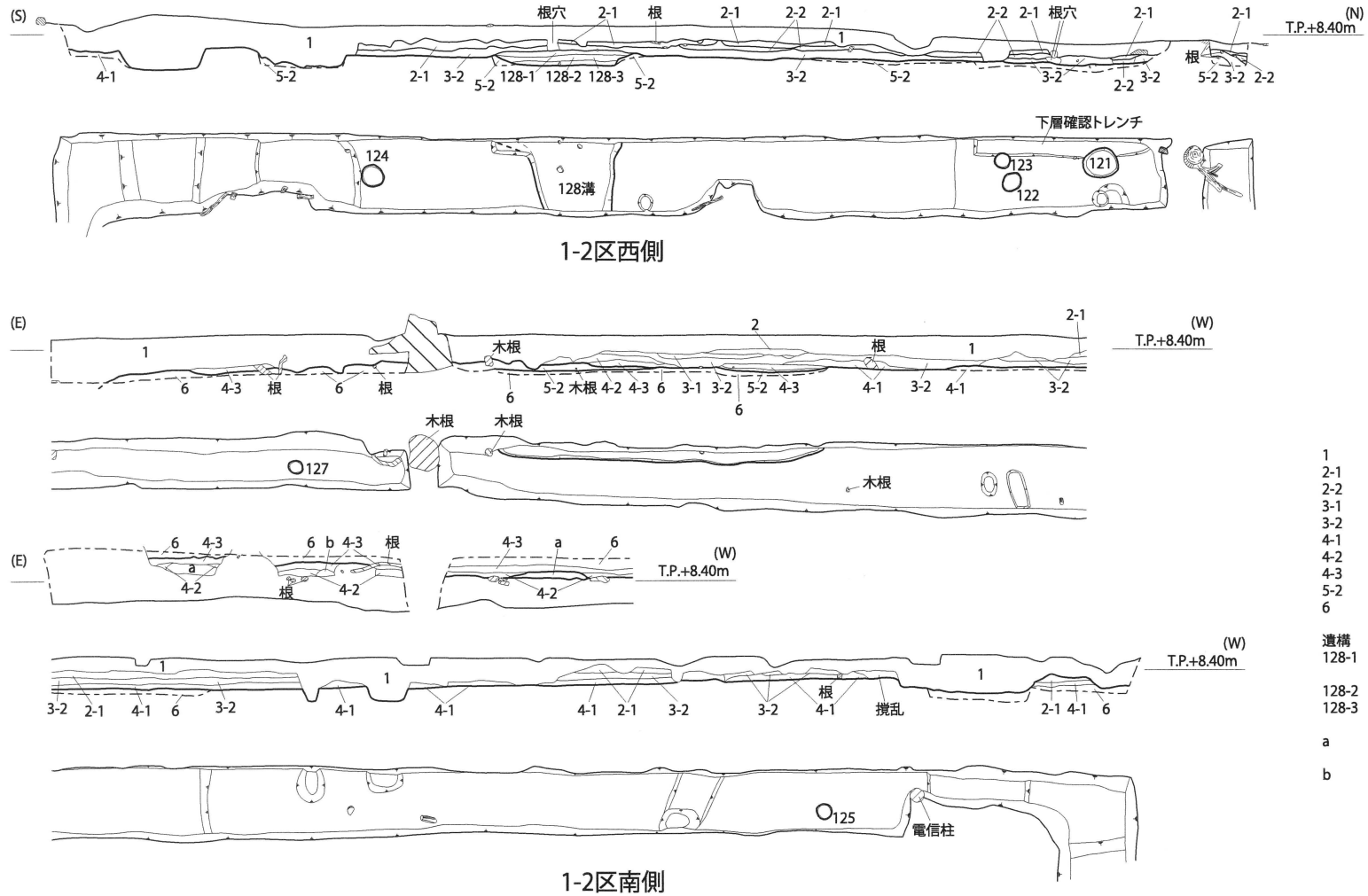


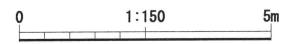
図7 1-2区出土遺物実測図

図8 1-2区西側・南側遺構平面図・土層断面図



- 1 10YR3/3暗褐色粘質土混細砂
- 2-1 10YR5/4にぶい黄褐色礫混細砂
- 2-2 10YR5/3にぶい黄褐色礫混細砂
- 3-1 10YR4/3にぶい黄褐色粘質土混細砂
- 3-2 10YR4/3にぶい黄褐色粘質土混細砂
- 4-1 10YR4/3にぶい黄褐色細砂～小礫。しまりなし
- 4-2 10YR4/3にぶい黄褐色細砂 粗砂～小礫
- 4-3 10YR4/3にぶい黄褐色細砂 粗砂～小礫。ややしまりあり
- 5-2 10YR6/3にぶい黄褐色細砂～粗砂。ややしまりあり
- 6 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト混細砂～粗砂

- 遺構
- 128-1 10YR6/4にぶい黄褐色細砂混粘質シルト粗砂～小礫φ0.5～1cm含む。しまりあり
 - 128-2 10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト混細砂～粗砂。しまりややあり
 - 128-3 10YR4/4褐色粘質シルト少量混細砂礫φ1～10cm含む。ややしまりなし
 - a 10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト混細砂φ0.5～1cm礫含む。ややしまりあり
 - b 10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト混細砂φ0.5～1cm礫含む。しまりあり



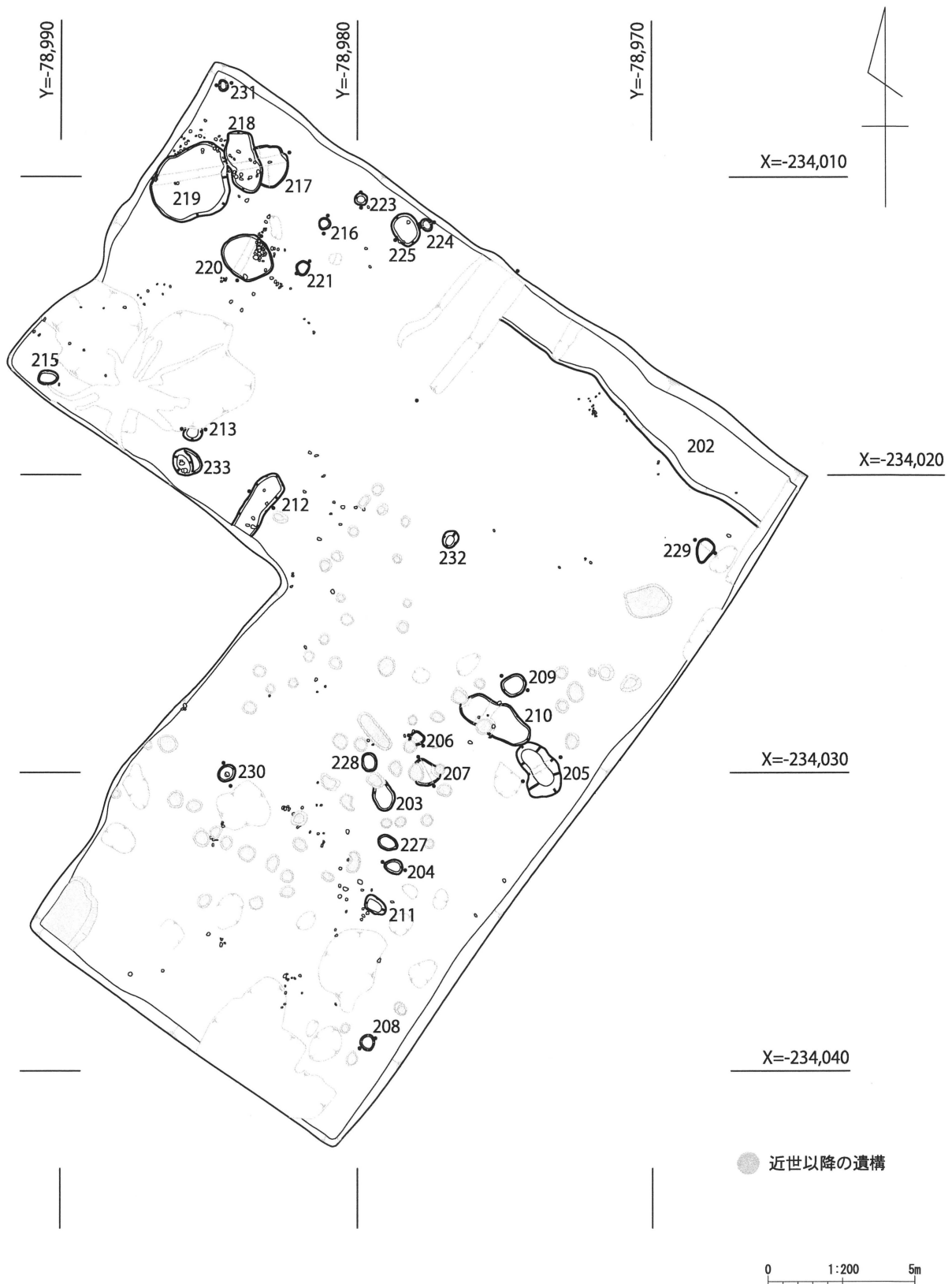


図9 2区遺構平面図

220 土坑 北西部に位置する。平面形は菱形に近い楕円形を呈し、長軸 1.8m、短軸 1.58m、深さ 0.15mを測る。土坑内の北東部で 5～20cm大の垂円礫が多く出土した。周辺の遺構である 217 土坑・218 土坑・219 土坑内や周辺でも同様の垂円礫が多くみられた。

229 土坑 北東部に位置する。長軸 0.84m、短軸 0.55m測り、底部は浅く凹む。埋土は 10YR 4/3 にぶい黄褐色粘質シルト混じり細砂で、弥生土器の甕底部片が出土した。

202 溝 北東部に位置する。1-1 区北調査区では確認できず、全体は不明である。弥生時代中期の甕口縁部片 (15) が出土した。

212 溝 西部に位置する。残存長 2.1m、幅 0.96m、深さ 0.35mを測る。溝の方向は NE-SW だが、南が調査範囲外にあたるため、全体は不明である。細片のため図化できなかったが、広口壺口縁部、櫛描きで波状文を施した壺体部、甕等の弥生時代中期の土器片が出土した。

遺物 第 1～2 層から弥生時代中期前葉～中葉の弥生土器甕口縁部 (17) 片など、近世の瓦類、土師質土器焜炉 (24)、陶磁器 (備前焼播鉢 (23)、施釉陶器皿 (22) 等)、銭貨「5 銭 (明治 10 年)」、近世から近現代の遺物が出土した。第 3 層から須恵器片、土師器片、弥生土器片、第 4 層上面から弥生土器甕口縁部片 (16) が出土した。調査区西部の株元から、弥生時代の石製紡錘車 (S2) が出土した。

4. 除根工事に伴う立会調査成果 (図 4・14・写真図版 8～10)

発掘調査を実施した集会場建物部分と擁壁部分を除いた範囲で樹木の除根工事及び立会調査を行なった。除根を行った部分で確認した土層は、基本層序のとおりである。トレンチ 2 において、口縁部を打ち欠いた須恵器壺 (26) が第 3 層中から出土しており、明確な遺構等は確認できなかったが、樹木の根周辺に古墳時代中期の土壇墓があった可能性がある。その他、近世以降の三巴文軒丸瓦 (28)・丸瓦 (29)、施釉陶器練鉢 (30) を表採している。

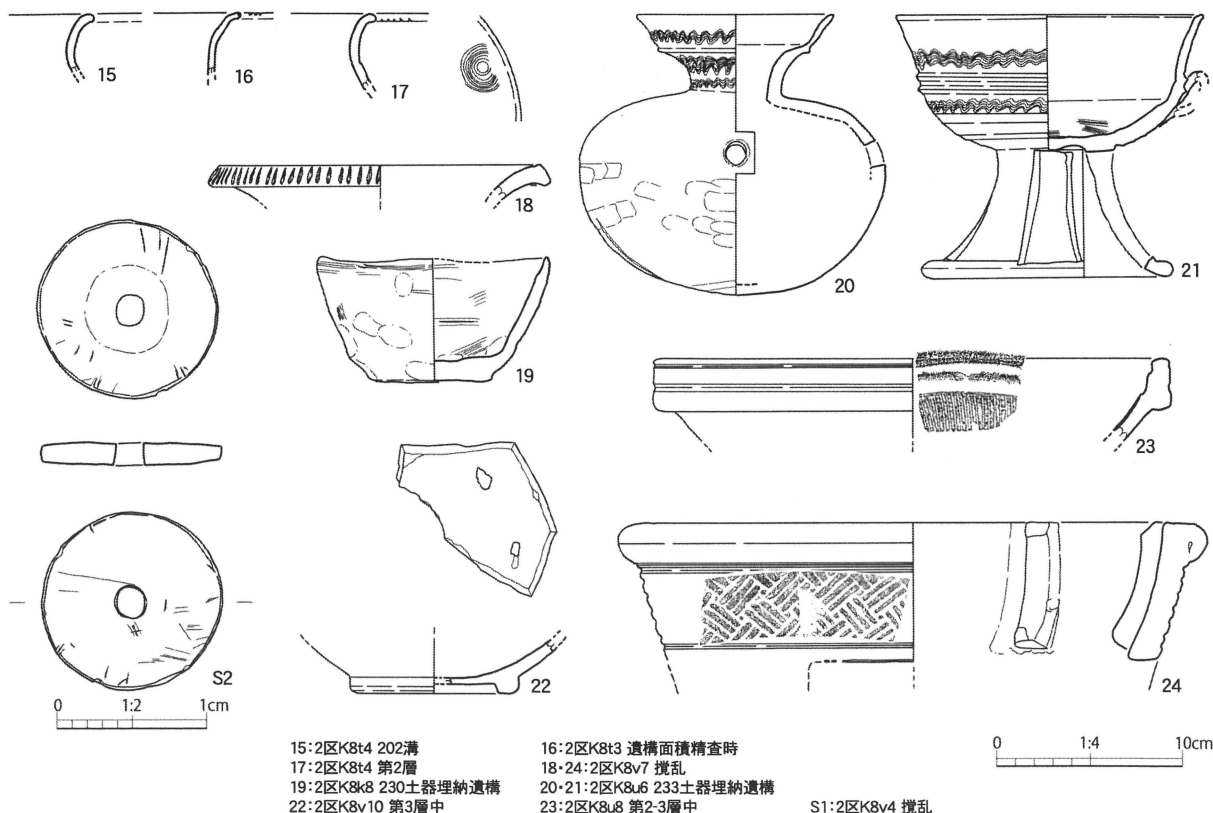
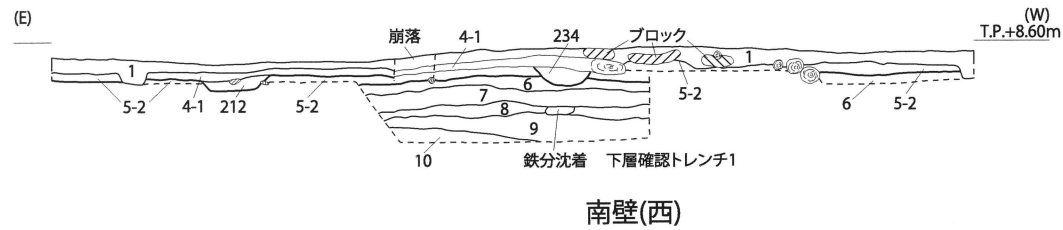
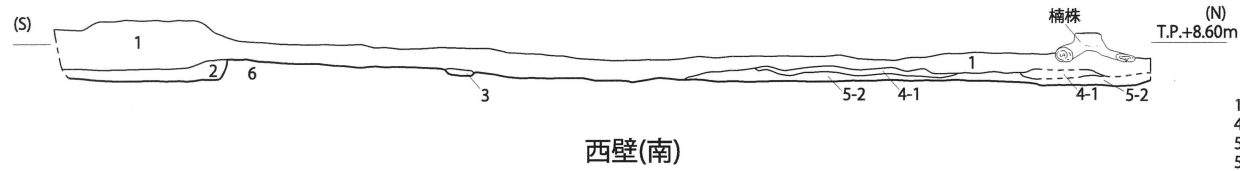
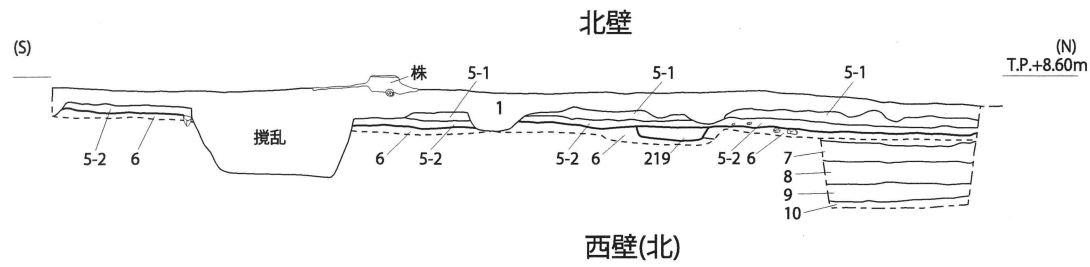
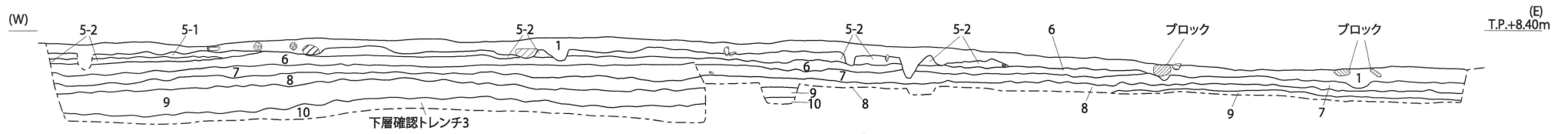


図10 2区出土遺物実測図



- 1 10YR3/3暗褐色粘質土混細砂
 - 4-1 10YR4/3にぶい黄褐色細砂~小礫。しまりなし
 - 5-1 10YR5/3にぶい黄褐色細砂
 - 5-2 10YR6/3にぶい黄褐色細砂~粗砂。ややしまりあり
 - 6 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト混細砂~粗砂
 - 7 2.5Y4/2暗灰黄色細砂。黒色砂粒含む。しまりなし
 - 8 2.5Y3/2黒褐色細砂。黒色砂粒含む
礫φ1~3cmやや多い。しまりなし
 - 9 2.5Y3/3暗オリーブ色細砂。黒色砂粒含む
小礫φ1~1.5cm含む。しまりなし
 - 10 2.5Y3/3暗オリーブ色細砂。黒色砂粒含む
小礫φ1~1.5cm含む。しまりなし
- 遺構
- 212 10YR4/4褐色粘質シルト混細砂。小礫含む
 - 219 10YR4/4褐色シルト混細砂。黒色砂粒含む

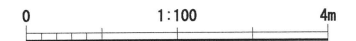


図11 2区土層断面図

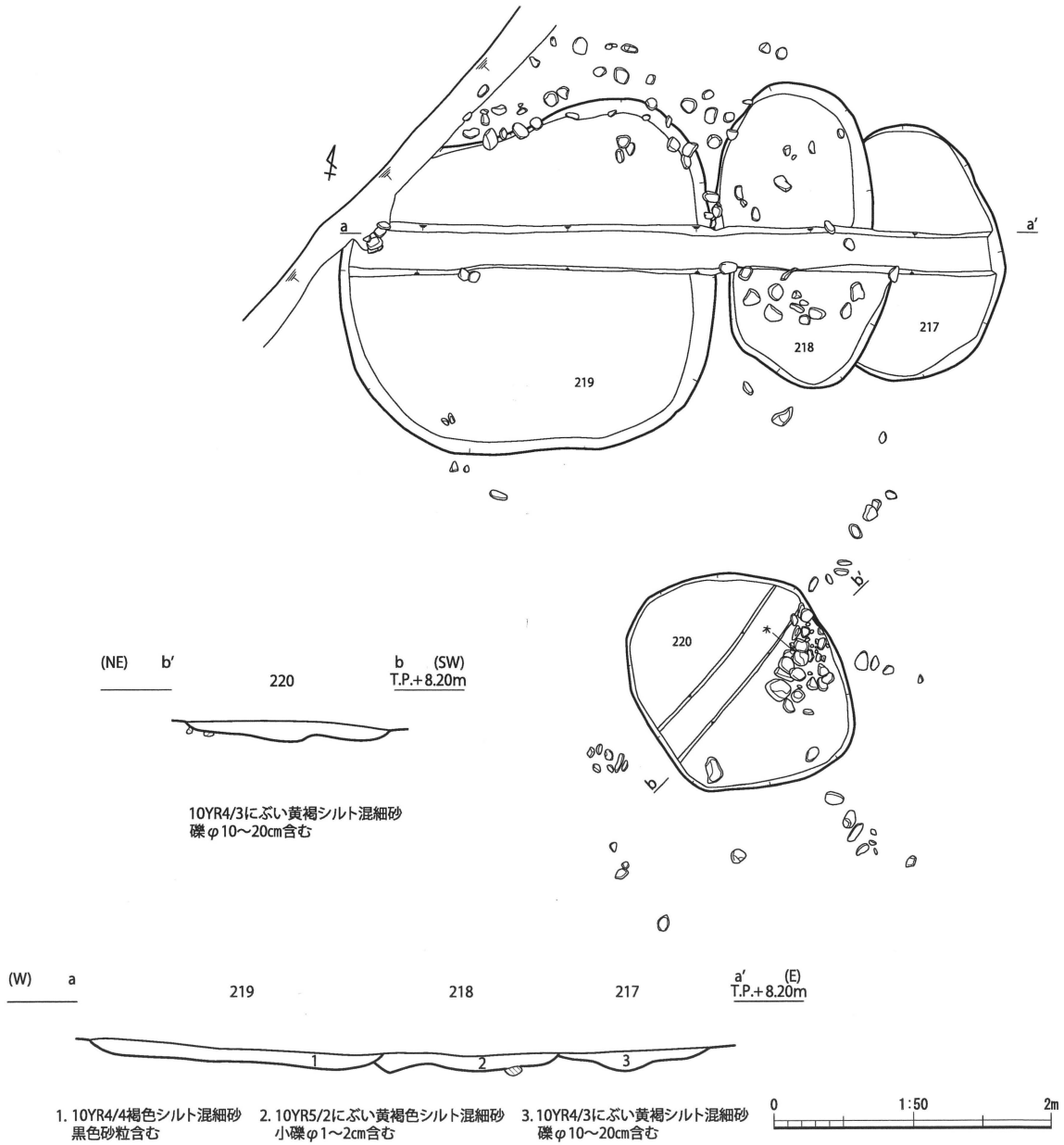
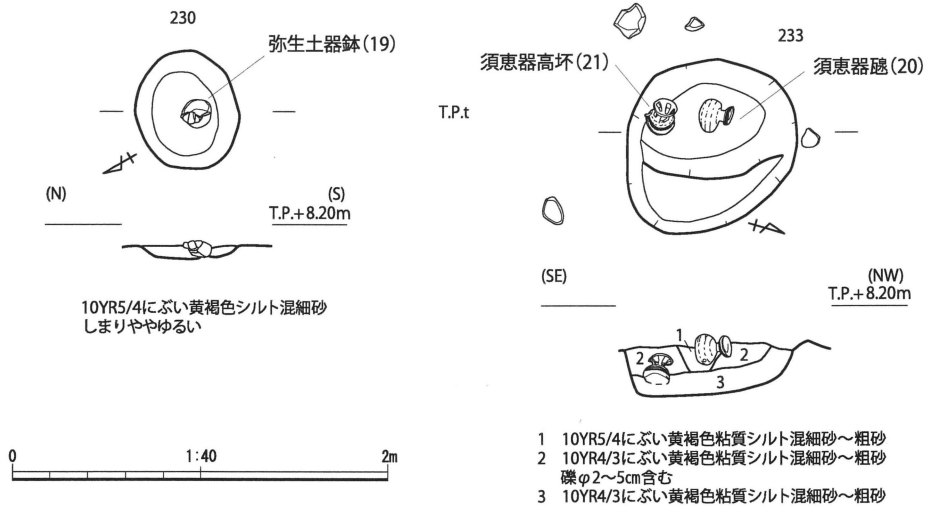


図12 2区個別遺構平面図・土層断面図(230・233・217・218・219)

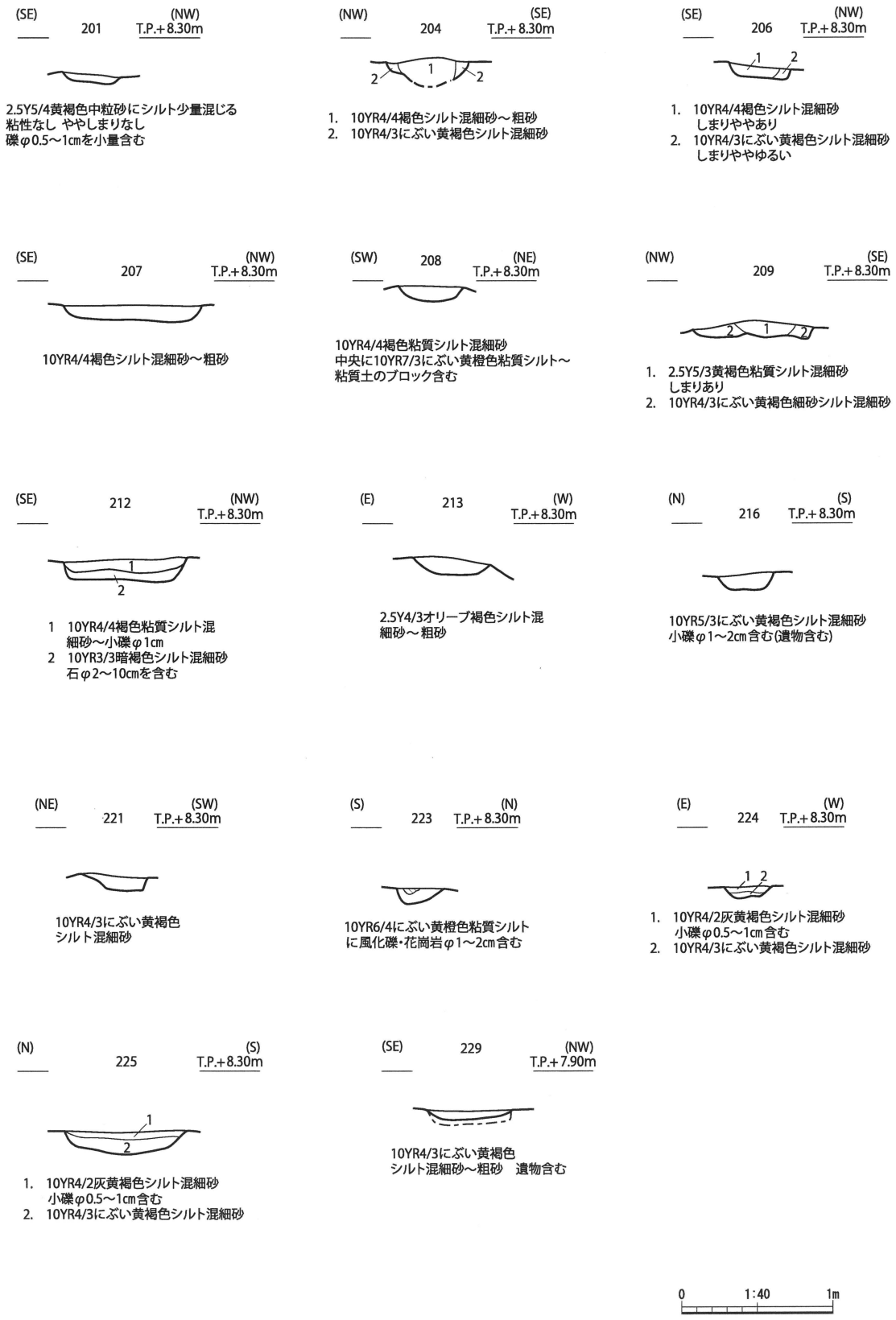


図13 2区個別遺構土層断面図

5. 町道水道管理設に伴う立会調査成果 (図4・写真図版8)

集会場新築工事に関連して、本調査地南の町道部分の水道管理設に伴う立会調査を実施した。トレンチ1は長さ3.0m、幅1.4m、深さ2.0m、トレンチ2は長さ1.4m、幅1.0m、深さ1.25mの範囲で調査を行い、確認した土層は基本層序のとおりで、遺物や遺構は確認できなかった。

第V章 まとめ

今回の調査区では、北に隣接する昭和62・63年度の成果から、弥生時代の方形周溝墓、弥生時代から平安時代の土壙墓等の確認が期待された。調査の結果、土壙墓の可能性が高い、弥生時代中期頃の鉢の土器埋納遺構と、古墳時代中期中葉の須恵器甕と高坏の土器埋納遺構等を確認したことにより、当該地区が弥生時代や古墳時代の墓域と埋葬に関連する祭祀場として利用された可能性がある。

また、弥生時代中期前葉と思われる紀伊型甕の口縁部が出土していることから、当該時期の遺構の南への広がりが推測される。

調査区周辺は、南に向かって低くなっており、砂堆頂部から少し下った、調査地の北側を中心に遺構がみられる。今回の調査では、東西約500mに及ぶ砂堆の稜線付近に営まれた、各時期の墓域の広がり土地利用を考える上で、貴重な調査成果を得ることができた。

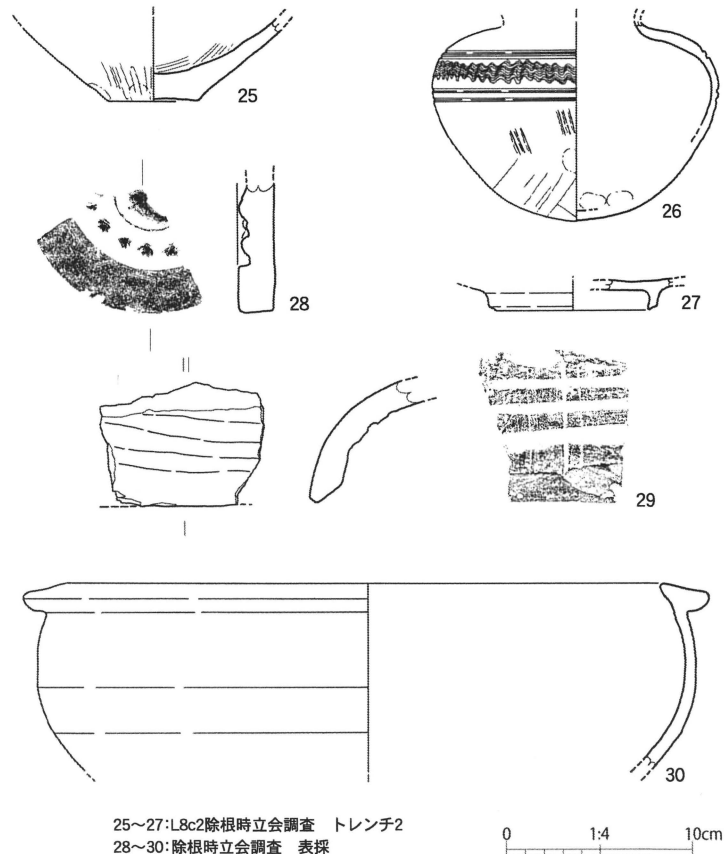
【註】

註1 「吉原遺跡—県道柏・御坊線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—」財団法人和歌山県文化財センター1990年3月

註2 「吉原遺跡—都市防災総合推進事業に伴う発掘調査報告書—」公益財団法人和歌山県文化財センター2017年2月

【参考文献】

「美浜町史 上巻」編集・美浜町史編集委員会 発行・美浜町 1988年3月



25~27: L8c2除根時立会調査 トレンチ2
28~30: 除根時立会調査 表探

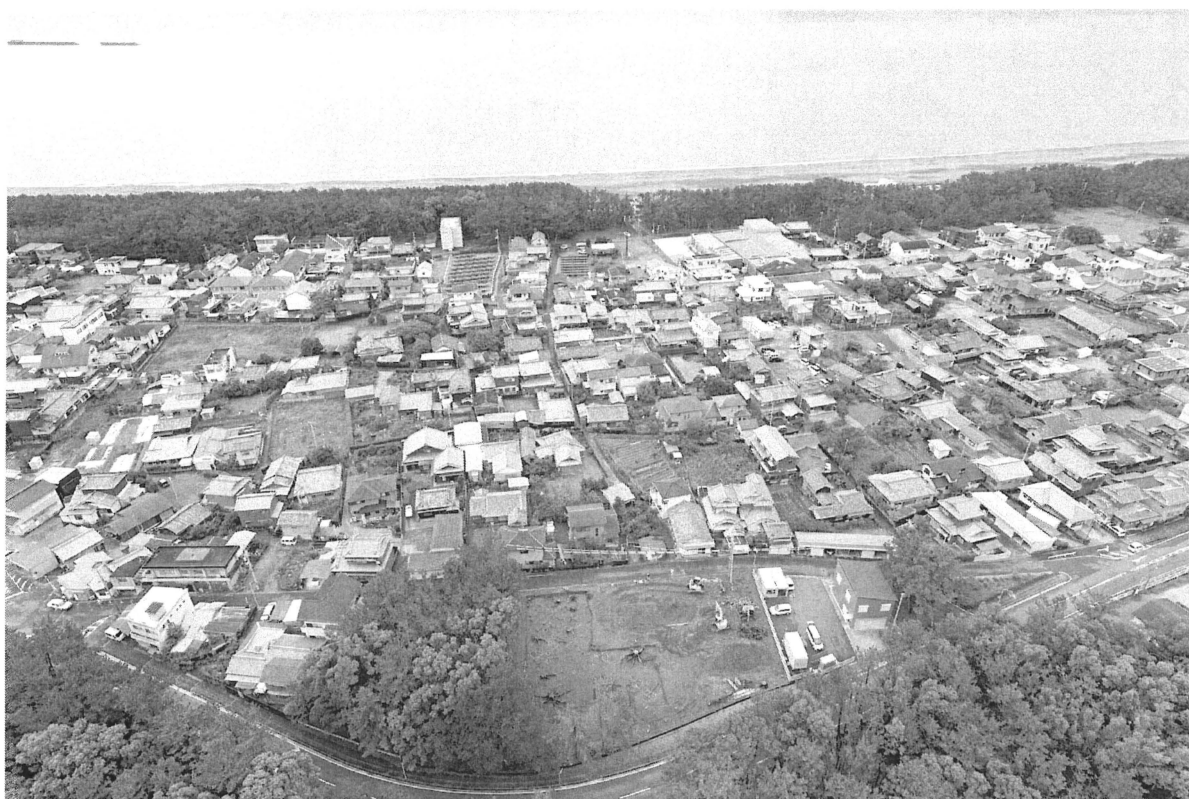
図14 除根時出土遺物実測図

表1 遺物観察表(土器・瓦) 径の()は復元径

遺物番号	挿図・図版番号	種類	器種	地区	遺構・層位	法量(cm)			残存率	胎土	焼成	色調	備考
						口径	底径	器高					
1	図5 図版9	土師質土器	焔炉	1-1区 K8w1付 近	排土中	(14.0)	(3.4)	—	5%以下	密 0.5mm以下の赤色酸化粒を微量含む	良好	内)5YR6/4にぶい橙 外)5YR6/4にぶい橙 断)5YR6/4にぶい橙	外面に折って口縁端部を方形につくる。
2	図5 図版9	土師質土器	焙烙	1-1区 K8w1付 近	排土中	(23.5)	(3.1)	—	5%	密 1mm以下の褐色、赤色酸化粒を微量含む	良好	内)5YR6/4にぶい橙 外)5YR6/4にぶい橙 断)2.5YR5/4にぶい赤褐	
3	図5 図版9	弥生土器	壺	1-1区 K8w1付 近	排土中	—	(2.0)	—	5%以下	やや粗 1mm以下の白色、灰色粒を多量に含む	良好	内)7.5YR7/4にぶい橙 外)5YR6/6橙 断)10YR7/3にぶい黄橙	口縁端部を上方に揃ひ上げる。弥生時代中期。
4	図5 図版9	磁器	鉄道茶瓶	1-1区 K8s8付 近	排土中	3.7	7.6	8.9	100%	密	良好	内)N8/0灰白 外)N8/0灰白 断)断形のため不明	付属の蓋を留める金具が残存。側面に陽刻で「国鉄機関車動輪マーク」を施す。
5	図5 図版9	瓦	平瓦	1-1区	第1~2層中	長 (12.7)	幅 (10.0)	高 (3.1)	20%	密	良好	内)N3/0暗灰 外)N3/0暗灰 断)7.5YR8/1灰白	凹面に溝描きで連続円形文を施す。凸面に糸切り痕。
6	図5 図版9	瓦	道具瓦	1-1区	第1~2層中	長 (9.4)	幅 (11.6)	高 (2.2)	20%	密 1mm以下の黒色粒を微量含む	良好	内)N3/0暗灰 外)N3/0暗灰 断)5Y7/1灰白	凸面に斜格子状の型押しを施す。
7	図5 図版9	瓦	軒丸瓦	1-1区	第1~2層中	瓦当 (6.7)	—	—	瓦当の25%	密 0.5mm以下の黒色・白色粒を少量含む	良好	内)N3/0暗灰 7.5YR8/3浅黄橙 外)N3/0暗灰 7.5YR7/3にぶい橙 断)5Y7/1灰白	
8	図5 図版9	瓦	軒丸瓦	1-1区	第1~2層中	瓦当 (4.1)	—	—	5%	密 1mm以下の白色粒を微量含む	良好	内)N2/0黒 外)N3/0暗灰 断)10YR8/1灰白	
9	図7 図版9	土師質土器	焔炉	1-2区 L8c2	第1~2層中	(24.6)	(8.1)	—	口縁部の25%	やや粗 1mm以下の白色粒を多量に含む	良好	内)5YR6/6橙 外)5YR5/4にぶい赤褐 断)5YR5/6明赤褐	体部に連続刺突文状の型押しを施す。口縁部内面に集げ付着。
10	図7 図版9	磁器染付	猪口	1-2区 L8c6	第1~2層中	(8.2)	5.7	(6.5)	20%	密	良好	内)N8/0灰白 5B2/1青黒より青 外)N8/0灰白 5B2/1青黒より青 断)N8/0灰白	蛇ノ目凹形高台。江戸時代後期。
11	図7 図版9	土師質土器	サナ(目皿)	1-2区 L8c2	第1~2層中	縦 (5.8)	横 (9.2)	厚 (1.3)	25%	密 0.5mm以下の白色・赤色粒を少量含む	良好	内)7.5YR4/1褐灰 外)N2/0黒 断)5YR6/3にぶい褐	表面はミガキを施し、裏面には脚部の痕跡が残る。穿孔の痕跡あり。
12	図7 図版9	焼締	播鉢	1-2区 L8c6	第1~2層中	(16.0)	8.8	(7.2)	15%	密 1mm以下の白色粒を少量含む	良好	内)10R3/2暗赤褐 10R4/6赤 外)10R3/2暗赤褐 断)10R4/6赤	播り目(7条/cm)。備前焼か。
13	図7 図版9	瓦	軒丸瓦	1-2区 L8c6	第1~2層中	瓦当 (6.7)	—	—	10%	密 2mm以下の黒色・白色粒を少量含む	良好	内)N3/0暗灰 外)N3/0暗灰 断)10Y7/1灰白	
14	図7 図版9	瓦	丸瓦	1-2区 L8c2	第1~2層中	長 (17.2)	幅 (7.6)	高 (7.0)	25%	密 1mm以下の白色粒を微量含む	良好	内)N1.5/0黒 外)N3/0暗灰 断)5Y6/1灰	凹面に糸切り痕のちヘラナデ。
15	図10 図版10	弥生土器	壺	2区 K8t4	202	—	(3.2)	—	5%以下	粗 2.5mm以下の石英、チャート、片岩を多量に含む	良好	内)7.5YR5/4にぶい橙 外)10YR7/3にぶい黄橙 断)10YR3/1黒褐	口縁部~頸部の内外面に横ナデを施す。弥生時代中期。
16	図10 図版9	弥生土器	壺	2区 K8t3	遺構面 精査時	—	(3.4)	—	5%以下	やや粗 1.5mm以下の石英、片岩を少量含む	良好	内)5YR5/4にぶい赤褐 外)10YR7/3にぶい黄橙 断)10YR7/3にぶい黄橙	口縁部~頸部の内外面に横ナデ、口縁端部に刻みを施す。弥生時代中期。
17	図10 図版9	弥生土器	壺	2区 K8t4	第2層中	—	(4.1)	—	5%以下	粗 3mm以下の白色粒を多量に含む	良好	内)7.5YR5/3にぶい褐 外)10YR7/3にぶい黄橙 断)7.5YR6/2灰褐	口縁部~頸部の内外面に横ナデを施す。弥生時代中期。
18	図10 図版9	弥生土器	広口壺	2区 K8v7	攪乱	(16.9)	(1.9)	—	5%以下	密 1mm以下のチャートを少量含む	良好	内)5YR8/4にぶい橙 外)10YR6/4にぶい黄橙 断)10YR6/1褐灰	口縁端部が下方に垂下し、ヘラ描きで刻みを施す。口縁部内面に同心円状の型押しを施す。弥生時代中期。
19	図10 図版9	弥生土器	鉢	2区	230	12.1	6.7	6.4	95%	やや密 2mm以下の灰色粒、チャートを多量に含む	良好	内)2.5YR6/6橙 N2/0黒 外)5YR6/6橙 断)N5/0灰	口縁部を横ナデし、内面は横ナデ・ハケ状工具によるナデ・指オサエ、外面は一部にハケ状工具によるナデ・指オサエが強く残る。体部~底部内面に黒斑あり。弥生時代中期。
20	図10 図版9	須恵器	罎	2区	233	10.4	15.0	—	100%	密 2mm以下の白色粒を少量含む	堅緻	内)N6/0灰 外)N3/0暗灰 N5/0灰 断)断形のため不明	口縁部に1条と頸部2条に波状文(条・6条)を施す。底部にヘラ記号を施す。
21	図10 図版9	須恵器	高坏	2区	233	16.4	14.0	12.3	98%	密 1.5mm以下の白色粒を少量含む	堅緻	内)N7/0灰白 N5/0灰 N2/0黒 外)N6/0灰 N2/0黒 断)N7/0灰白	坏部に波状文と凸帯を2条ずつ施し、外面に把手の痕跡あり。坏部内面に粘土目痕が3カ所あり。四方形透孔。
22	図10 図版9	施釉陶器	皿	2区 K8v10	第3層中	—	(3.9)	(8.1)	25%	密	良好	内)5Y6/2灰オリーブ 外)5Y6/2灰オリーブ、 露胎2.5Y7/3浅黄 断)2.5Y6/1黄灰、2.5Y7/3浅黄	削り出し高台で高台以外に灰胎を施す。見込みに粘土目2カ所あり。
23	図10 図版9	焼締	播鉢	2区 K8u8	第2~3層中	(27.5)	(4.4)	—	5%以下	密 0.5mm以下の白色粒を微量含む	良好	内)2.5YR4/2灰赤 外)2.5YR3/1暗赤灰 2.5YR4/6赤褐 断)2.5YR4/6赤褐	播り目(4条/cm)。備前焼。
24	図10 図版9	土師質土器	焔炉	2区 K8v7	攪乱	(27.3)	(7.3)	—	10%	やや粗 2mm以下のチャート、雲母を多量含む	良好	内)5YR5/4にぶい赤褐 外)5YR5/4にぶい赤褐 断)5YR5/4にぶい赤褐	折って口縁端部を玉縁状につくる。体部外面にヘラ状工具で網代文様を描き、内面は横ナデを施す。江戸時代。
25	図14 図版10	弥生土器	壺	除根時 立会 L8c2	排土中	—	(4.5)	4.8	底部の60%	粗 1.5mm以下の白色粒、チャートを多量に含む	良好	内)10YR7/3にぶい黄橙 外)10YR6/4にぶい黄橙 断)10YR8/4浅黄橙	内面ハケ目、外面は指オサエのちヘラナデ。
26	図14 図版10	須恵器	壺	除根時 立会 トレンチ2 第3層	トレンチ2 第3層	—	10.6	—	体部最大径 15.4	やや密 1.5mm以下の白色粒を少量含む	良好	内)N6/0灰白 外)N7/0灰白 N6/0灰 断)N6/0灰	頸部を打ち欠く。体部に沈線と波状文(9条)を施す。
27	図14 図版10	土師質土器	皿	除根時 立会 トレンチ2	精査時	—	(8.2)	(1.7)	10%	密 0.5mm以下の灰色粒を微量含む	良好	内)5YR6/4にぶい橙 外)7.5YR6/4にぶい橙 断)7.5YR7/4にぶい橙	貼り付け高台。
28	図14 図版10	瓦	軒丸瓦	除根時 立会(西)	表探	瓦当 (6.8)	—	—	瓦当の25%	密 1mm以下の灰色粒を少量含む	良好	内)N3/0暗灰 外)N3/0暗灰 断)7.5YR7/1灰白	
29	図14 図版9	瓦	丸瓦	除根時 立会(西)	表探	長 (8.8)	高 (6.4)	巾 (6.5)	10%	密	良好	内)2.5YR7/2灰黄 5YR6/4にぶい橙 外)2.5YR7/2灰黄 5YR6/4にぶい橙 断)2.5YR灰黄	凹面に鉄線による切り痕が残る。江戸時代。
30	図14 図版10	施釉陶器	練鉢	除根時 立会(西)	表探	(31.8)	(10.0)	—	10%	密	良好	内)5Y7/2灰白 外)5Y7/2灰白 断)10YR7/2にぶい黄橙	鐙口の口縁部の一部以外に透明釉を施す。
31	図版9	磁器	鉄道茶瓶	1-1区 K8s8付 近	排土中	3.8	7.4	7.6	100%	密	良好	内)N8/0灰白 外)N8/0灰白 断)断形のため不明	付属の蓋を留める金具が残存。側面に陽刻で「国鉄機関車動輪マーク」を施す。

表2 遺物観察表(石製品)

遺物番号	挿図・図版番号	種類	器種	地区	遺構・層位	法量				備考
						長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	
S1	図7 図版10	石製品	砥石	1-2区 L8c6	第1~2層中	8.8	4.0~4.5	3.8	208.58g	砥面は5面使用。砥面1面につき、幅6~1.5cmの筋状の砥痕が1~3条残る。鑿や銚等の工具用砥石。鉄分付着。中ほどで欠損。
S2	図10 図版10	石製品	紡錘車	2区 K8v5	攪乱	4.8	4.7	0.6	26.13g	表裏面と側面を磨く。中央に径0.8cmの穿孔があり、その周辺径2.5cmに糸擦痕が残る。



調査地全景（北東上空から）



調査区全景（北から）



1-1区北側 全景
(西から)



1-1区北側
北壁土層断面



1-1区東側 全景
(南から)



1-2区南側 全景
(西から)



1-2区南側
南壁土層断面



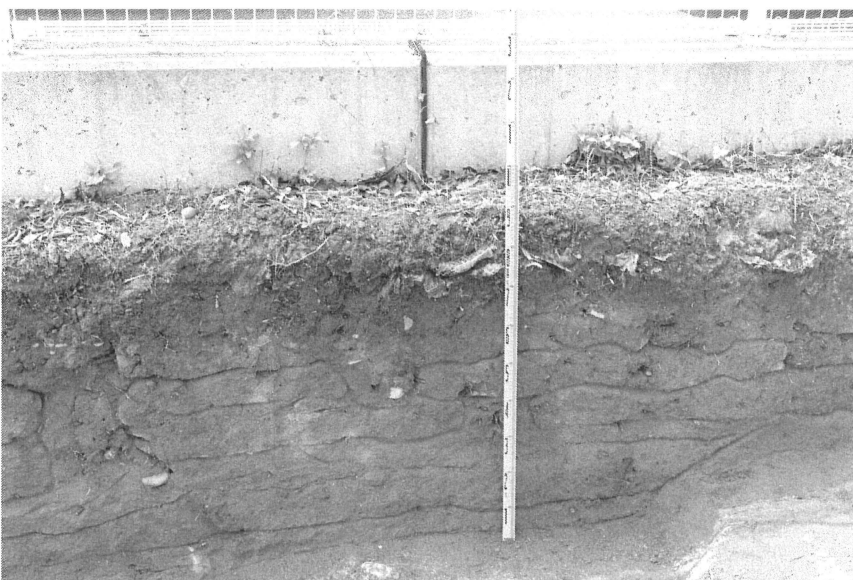
1-2区西側
121 土層断面 (東から)



1-2区西側 全景
(北から)



1-2区西側
128 (北西から)



1-2区西側
西壁土層断面



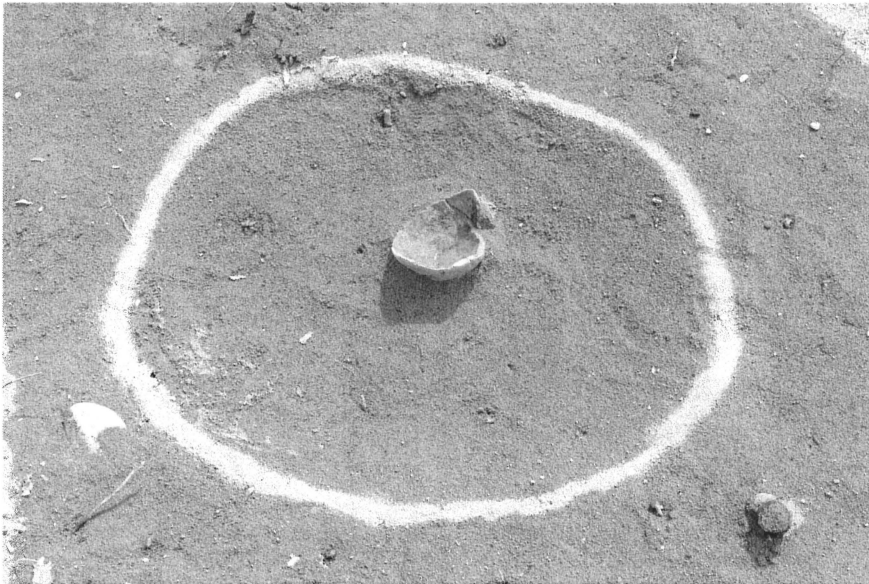
2区 全景 (南上空から)



2区 全景 (西から)



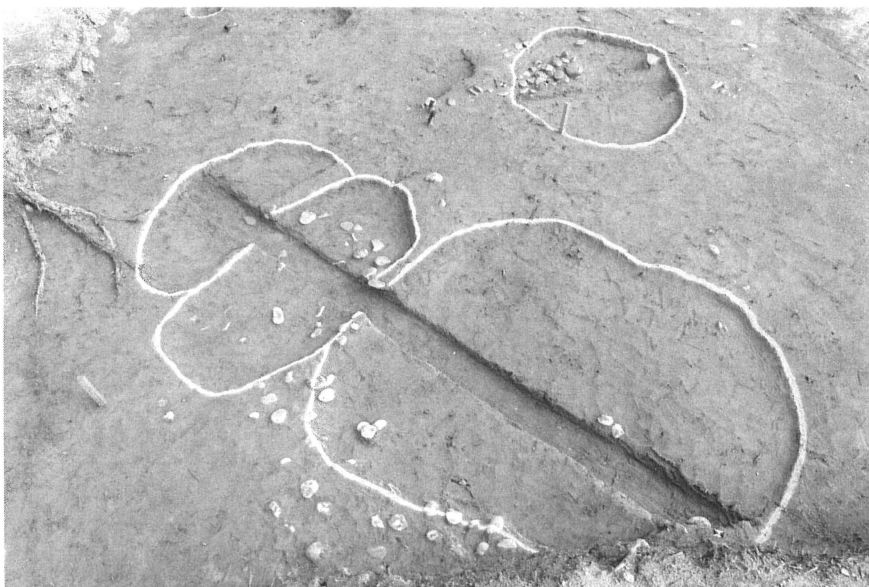
2区 西壁土層断面



230 弥生土器鉢(19) 出土状況
(西から)



230 土層断面 (西から)

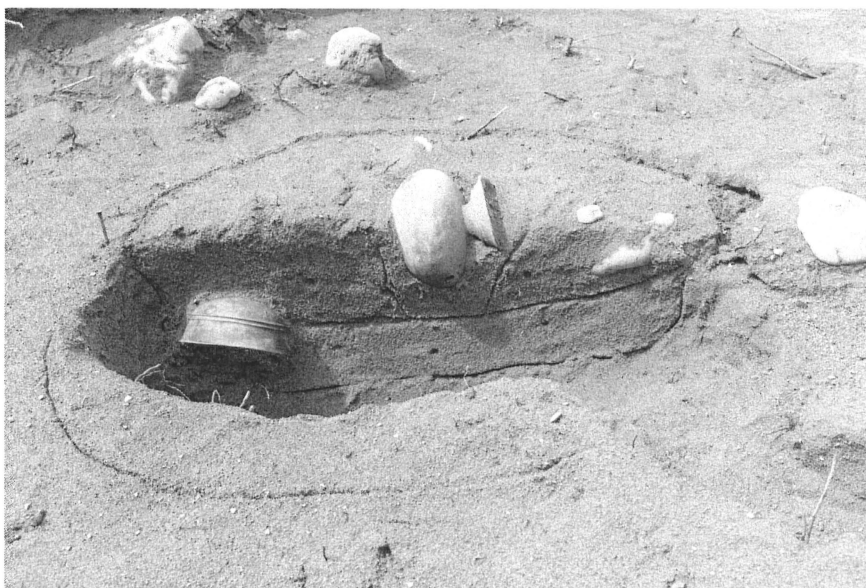


217~219・220
(西から)

233 須恵器 (20・21) 出土状況
(南から)



233 土層断面 (西から)



220 全景 (北から)





除根作業状況



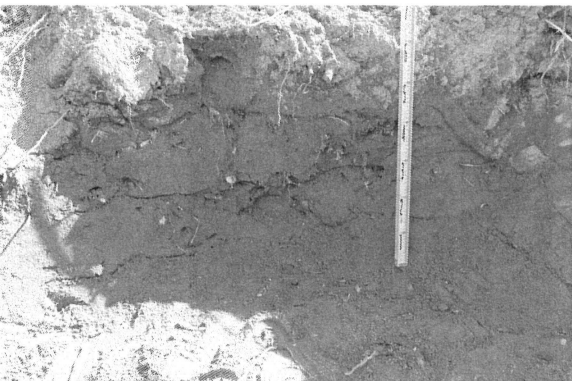
除根時立会調査トレンチ 1 北壁土層断面



除根時立会調査トレンチ 2 南壁土層断面



除根時立会調査トレンチ 3-1 南壁土層断面



除根時立会調査トレンチ 4-1 南壁土層断面



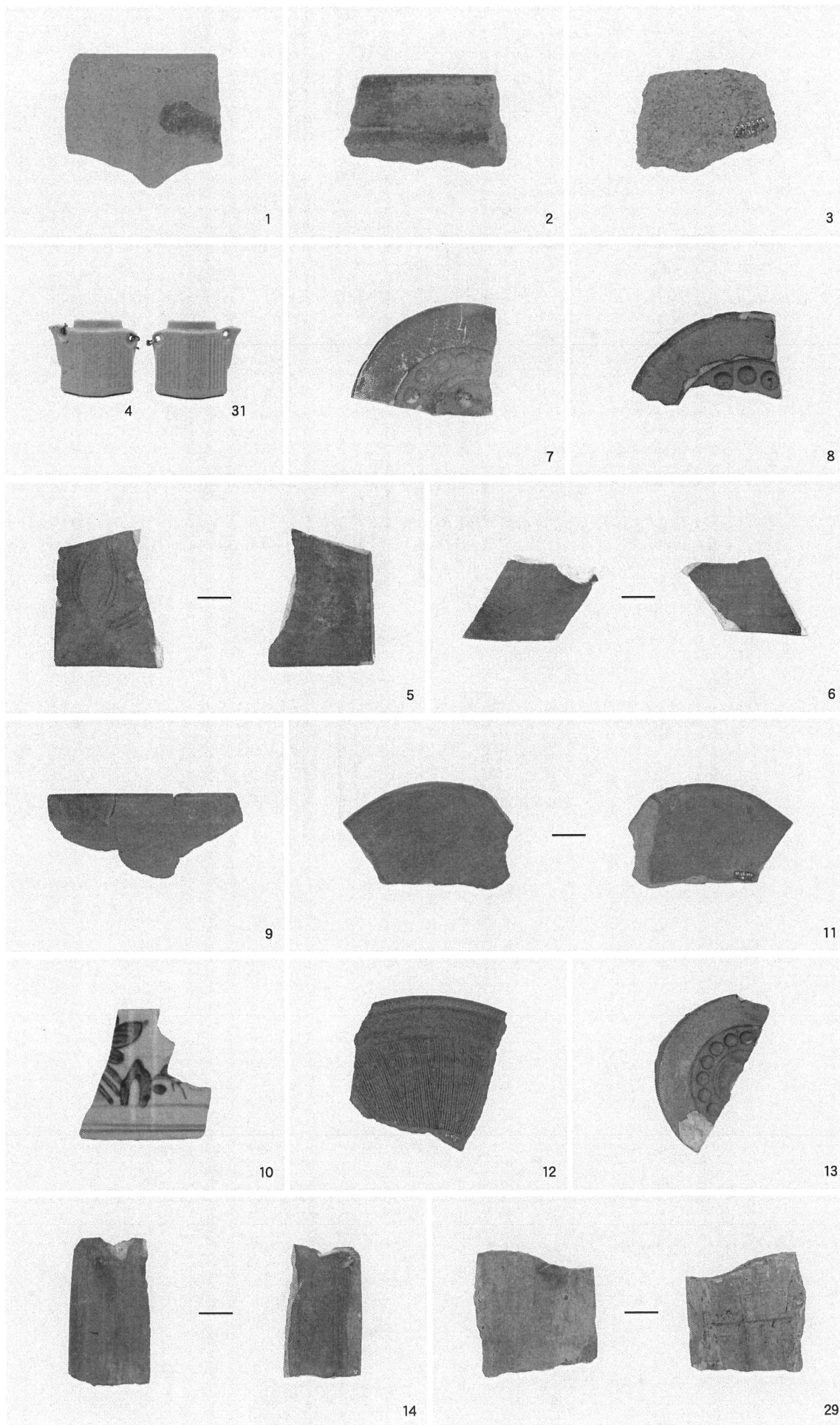
除根時立会調査トレンチ 5 東壁土層断面

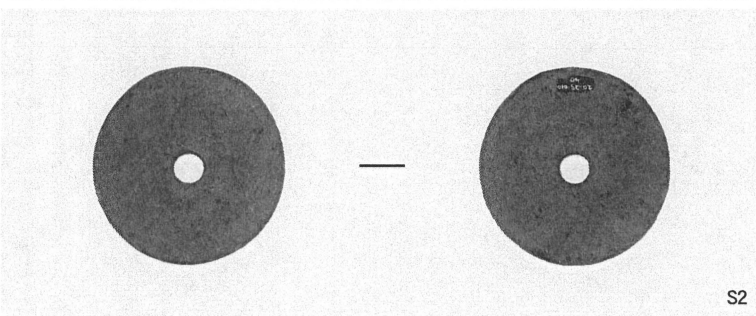
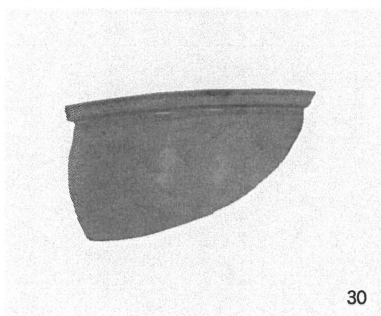
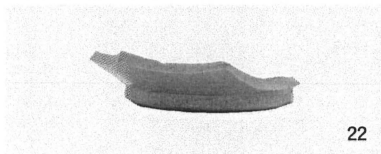
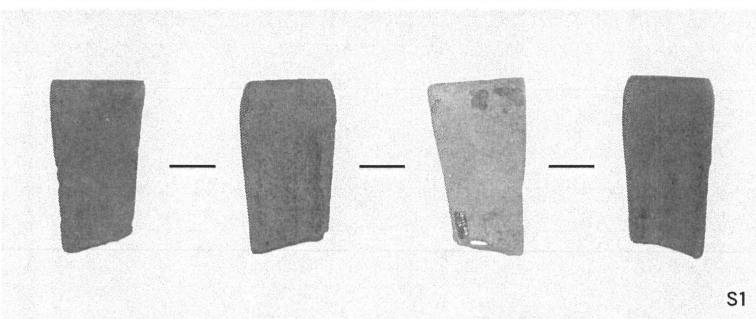
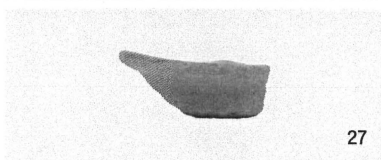
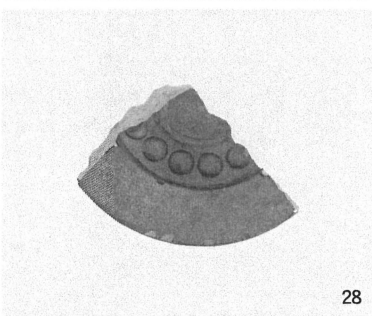
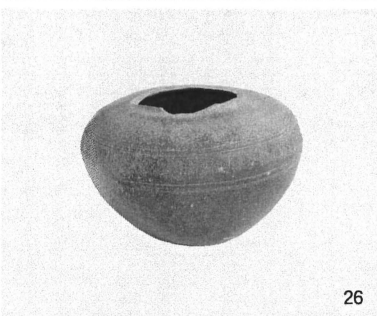
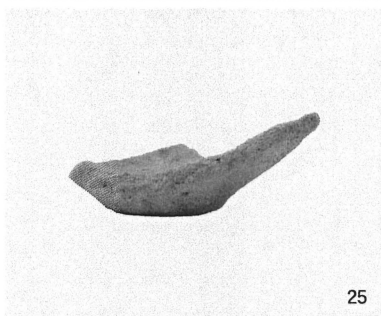
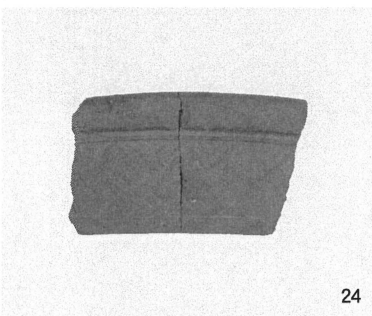
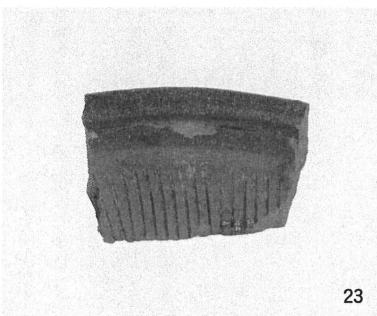
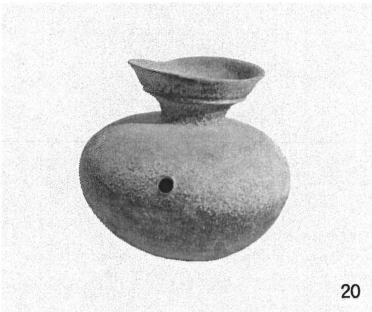
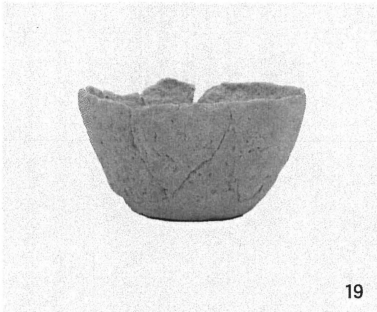
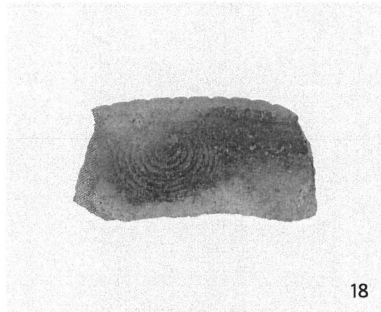
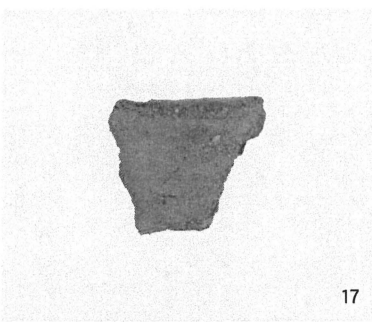
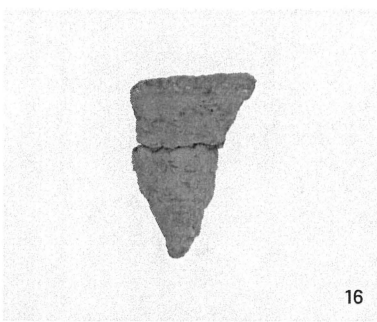
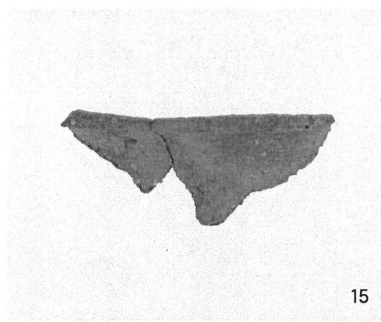


水道管理設立会調査トレンチ 1 東壁土層断面



水道管理設立会調査トレンチ 2 西壁土層断面





報告書抄録

ふりがな	よしはらいせき							
書名	吉原遺跡							
副書名	新浜集会場新築工事に伴う発掘調査報告書							
巻次	—							
シリーズ名	—							
シリーズ番号	—							
編著者名	田之上裕子							
編集機関	公益財団法人 和歌山県文化財センター							
所在地	〒640-8301 和歌山市岩橋1263番地の1 TEL 073-472-3710							
発行年月日	西暦2021年3月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° / ' / "	東経 ° / ' / "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
よしはらいせき 吉原遺跡	わかやまけん 和歌山県 ひだかぐん みはまちょう 日高郡 美浜町	30381	010	33° 53' 14"	135° 08' 46"	20200701 ～ 20200930	720.6m ²	新浜集会場 新築工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
吉原遺跡	墓域	弥生時代	土器埋納遺構、溝、 土坑、小穴		弥生土器、石製紡錘車			
		古墳時代	土器埋納遺構		須恵器			
要約	<p>土壌墓の可能性が高い弥生時代中期頃の鉢の土器埋納遺構、古墳時代中期中葉の須恵器甕と高坏の土器埋納遺構等を確認し、東西約500mに及ぶ砂堆とその周辺に営まれた、各時期の墓域の広がりや埋葬に関連する祭祀場等の土地利用を考える上で、貴重な調査成果を得た。</p>							

吉原遺跡

—新浜集会場新築工事に伴う発掘調査報告書—

2021年3月25日

編集・発行：公益財団法人和歌山県文化財センター

〒640-8301 和歌山県和歌山市岩橋 1263 番地の1

印刷・製本：初田印刷株式会社